

# 知ってるようで知られていない！測量担当の業務について

## 1. はじめに

測量担当は、初めに現場に乗り込む事業着手にあたっての現況測量に始まり、工事完了後に管理課へ引継ぐための道路台帳等の整備など幅広い業務を担当しているが、測量に携わったことのない職員は多いと思われる。設計や工事監督に比べ脇役感は強いが、最初に地権者への心象を悪くすればその後の事業に悪影響を及ぼすことから、主役級の技術が求められる脇役だと自負している。

そこで本発表では、主に測量未経験者に向けて、知ってるようで知られていない測量担当の業務について報告する。

## 2. 測量担当の業務について

都市計画道路事業における標準フローは図-1に示すとおりである。

測量担当はフローのほぼすべての手続きで関わるが、このうち主要な業務とも言える「現況測量」、「用地測量」、「用地取得」、「道路台帳作成」に係る業務について概要を説明する。

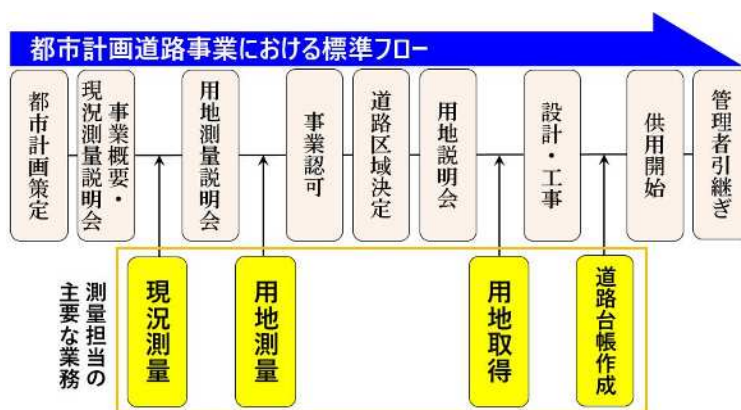


図-1 都市計画道路事業における標準フロー

### 【測量担当の主要な業務（概要）】

- ✓ 現況測量の主な内容：道路の位置を正確に落とし、周辺地形・地物との位置関係や高低差を調査する業務
- ✓ 用地測量の主な内容：用地取得に必要となる図面等を作成するための資料及び現地調査、土地境界の検討図作成・立会、平面図や実測図の作成業務
- ✓ 用地取得に係る業務：用地取得に必要となる図書の作成業務
- ✓ 道路台帳作成に係る業務：管理者引継ぎ時に必要となる道路台帳平面図（道路現況を示す図面）等の作成業務

## 3. 対応に苦勞した事例について

ここでは2で説明した主要な業務のうち用地測量に係る業務について、対応に苦勞した事例を報告する。

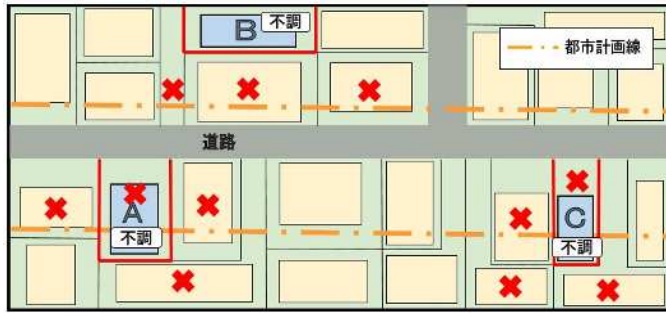
### 3.1 用地取得件数の確保

#### 現地の状況等

- ・境界に不満を持つ地権者が少数ではあるが存在する場合における用地取得件数の確保

#### 対応事例

- ・十分な資料調査等に基づく境界復元はもとより、地権者に対する丁寧かつ緻密な折衝により境界確定率を高め、用地取得件数を確保



取得対象件数	20件	都市計画内(黄線)の件数
必要立会人数	27人	道路管理者含 各筆1名所有の場合
境界不調	3名	A・B・Cの3名 境界不調は赤線部
取得可能件数 (境界確定件数)	9件	赤バツ箇所(11箇所)は取得不可

○立会率 27人 / 27人 = 100%      ○境界確定率 9件 / 20件 = 45%

図-2 用地取得件数について

### 3. 1. 1 地権者に対する丁寧かつ緻密な折衝(一例)

#### 地権者からの要望

- ・通常、計算点処理とする建物が密集している境界点の杭の特定

#### 対応事例

- ・地権者の居宅内から窓を超え、建物の壁と壁の約30cmの隙間に入り、スコップで地中を掘ることで杭を特定

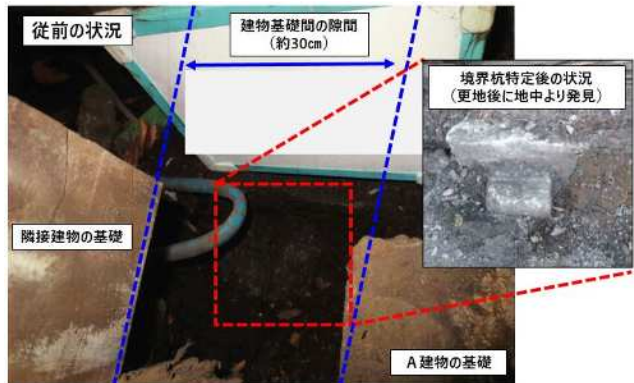


写真-1 境界点の特定(状況写真)

### 3. 2 用地取得に必要な書類作成(存在するはずの土地の調査)

#### 当時の状況等

- ・調整不足により地権者への代金の支払いが滞らないよう、用地取得に必要な書類(不動産調査報告書、地形図、地積測量図)の作成にあたり古い資料を読み解くなどの調査が必要となった事例

#### 対応事例

- ・存在するはずの道路の土地が法務局の電子化された地図で確認できなかったため、電子化以前の地図等から土地の記録を確認し電子化の過程で記録が漏れたと判断。法務局とも調整の上、用地取得に必要な資料を作成



写真-2 電子化された地図(法務局 公図)



写真-3 電子化以前の地図(古い資料一例)

## 4. まとめ

本発表では、地権者への丁寧かつ緻密な折衝・対応や用地取得に必要な資料作成のための入念な資料調査を徹底することが重要であった事例を報告した。

測量業務は、地権者との関わりが多いことから感謝の言葉を直接いただける機会や古い資料から土地の成り立ち等を謎解きのように推測する機会も多く、非常にやりがい・面白味がある。

この発表会で測量担当の業務を知っていただき、測量に携わりたいと希望する職員が増えてくれると幸いです。